

怒りっぽい・暴力

No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
1	ケアを統一したケース	ケアに対して手足を動かして抵抗し、「バカヤロー」等の暴言や看護師をたたいたり、足浴バケツをひっくり返そうとする等の行為があった。	訪問看護ステーション 看護師	妻と娘さん2人と同居している。低温火傷の処置のため訪問看護が開始された。主介護者である長女の発言に対して、常に抵抗を示すような言動がある。	「～しましょうか」という問いかけに対して怒り易くなるため、「～します」という言い方に統一した。訪問看護に慣れるまでは看護師2人で訪問した。次女には、暴言が見られないため、次女に同席してもらった。	暴言は続くものの、手や足による暴力は少なくなった。
2	ケアを統一したケース	預かった鍵で入室したところ、一緒にいたお嫁さんに飛びかかろうとし、興奮状態は30分ほど続いた。「鍵をかけているのに勝手に入った」と不安と怒りを感じた様子であった。	訪問介護事業所 介護職	独居だが、近所に息子夫婦が住んでいる。被害妄想や物盗られ妄想が強く、身内に向ける事が多い。	入室時は本人に鍵を開けてもらう事、スタッフが入室して本人の状態を確認してから、お嫁さんに部屋へ入ってもらった。内服薬の相談を主治医にした。訪問看護と介護で日々の情報を共有しながら対応した。	統一した入室方法を徹底し、薬が減量となったことで、お嫁さんに対しても笑顔や感謝の言葉も聞かれるようになった。お嫁さんだけで訪問が出来るようになった。
3	ケアを統一したケース	主に排便ケアで訪問看護を実施している。バイタルサイン測定時に看護師の腕を噛んでしまった。	訪問看護ステーション 看護師	夫が主介護者。寝たきり状態であり、日常生活動作は全介助で尿道留置カテーテル挿入中である。	ケア中は、看護師自身が自分の手を置く位置に気をつけた。	本人は興奮していることが多いが、看護師を噛むことはなく経過している。
4	ケアを統一したケース	訪問看護師をたたく・つねるなどの行動が見られた。	訪問看護ステーション 看護師	11年前アルツハイマー型認知症と診断された。夫が体調不良になった頃から、不穏行動が出現し、落ち着かない状態となった。	家族に協力してもらい、「大丈夫だよ。つらいね」などと声掛けをしてもらった。訪問看護師は、処置中は声を出さないようにして、終了時に必ず「ありがとう」とお礼を言い、訪問できてよかった事を伝えた。	当初は行動に変化はなかったが、徐々にたたく・つねるという動作がなくなった。家族へも穏やかに接する場面が増え、家族の疲労が減少した。
5	ケアを統一したケース	入浴介助や介護時に介助者の手を杖で振り払い、手をつねったり・たたいたりする行為がみられた。	デイサービス 介護職	息子さん夫婦と同居。主にお嫁さんが見守っている。	本人が納得するまで少し離れて様子を見守り、落ち着いてからタイミングをみながらゆっくりとした口調で入浴の声掛けを行った。	本人のタイミングで入浴できるようになった。
6	ケアを統一したケース	入浴前のトイレ誘導時、トイレに着くと急に「出ないから座りたくない」「こんな所にいたくない」と大きな声で興奮状態になった。その後は、入浴出来ず、トイレにも行かないことが数回あった。	デイサービス 介護職	娘さん家族と同居。レビー小体型認知症になり、デイサービスを利用開始。その後、転倒により骨折を繰り返してショートステイやデイサービス(泊まり)を利用している。編物が得意だった。	まずは、顔なじみのスタッフが1対1で対応し、「トイレ」という言葉を使わないで世間話や手編みのセーターの話をして誘導した。入浴は、カーテンで仕切って個別で対応した。また、目線を合わせて、ゆっくりと声掛けをしながら、衣服を脱いでもらった。	その時々で拒否する言葉は変わるが、常に受け入れ、穏やかな気持ちで対応すると拒否がなかった。
7	ケアを統一したケース	フロアから玄関に向かい、外に出ようとドアを開けようとする。「外は寒いですよ」と声をかけると、暴言が返ってくる。	小規模多機能型居宅介護 介護職	1人暮らし。デイサービスへは息子さんが送迎している。外出したい様子がある時は、2～3分でも外に出るようにすると嬉しそうな様子である。	落ち着かない様子でフロアを行ったり来たりする時は、隣に座り話をするようにした。	担当のスタッフを決めて話しかけたり、隣に座って話をするると落ち着いた。

怒りっぽい・暴力

No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
8	ケアを統一したケース	入浴時、タイミングが合わない と暴力・暴言があり、拒否も強くなる。顔も険しくなり攻撃的になる。	小規模多機能型居宅介護 介護職	夜間のみ独居。日中は息子さん 夫婦が仕事で自宅に訪れる。	スタッフを変えたり、入浴時間を変更したり時間を かけ、落ち着くのを待った。	朝は丁寧な挨拶をしたり、スタッフにも 労いの言葉をかける場面が増えた。入浴 時間を朝に変更したことで、入浴できる 日が多くなった。
9	ケアを統一したケース	他の利用者が使用している座布団 を無理やり取り上げようとして、 大きな声を出し、相手をたたいて しまう。	小規模多機能型居宅介護 介護職	夫と2人暮らし。普段から車椅子 で過ごしている。物盗られ妄想 があり、他人の物でも自分の物 だと強く言い、時に暴力をふる って奪うことがある。週1回 泊まりで小規模多機能を利用し ている。	落ち着くために、その場から少し離れてもらい、 本人の話を聞いた。相手の目をじっと見つめて、 「味方であるよ」と本人が思えるように関わっ た。	落ち着くと笑顔になる。話し方も柔らか くなり鼻歌を歌う様子も見られた。
10	ケアを統一したケース	最近難聴になってきたためか、 「聞こえないのかー！」と怒鳴 る。また、動くことがかなり億劫 な様子で、リハビリやトイレに行 くことに拒否がある。洗腸も叫ん で拒否をする。	訪問看護ステーション 看護師	要支援の妻と2人暮らし。脳梗塞 の既往があるため、1人での外出 はできず、室内は伝い歩き。日 中は椅子に座ったままで、妻に 全て用事を頼んでおり、自分で は動かない。妻も体調不良です ぐに行動はできない。	本人の嫌がることはなるべくしないよう支援しな がら、まずは信頼関係作りをし、訪問自体を拒否 されないようにした。リハビリは、座ったままで できることを中心に行い、できた時には認めるよ うにしたり、毎回同じことをして定着できるように した。洗腸ではなく服薬にて排便コントロールを した。	本人、妻にも訪問を拒否されることはな く、祝日の振り替えも必ず行い、週1回 の訪問を定着することができた。信頼関 係を築くことで、ケアの途中で怒るこ とはあるが、拒否はなくなった。
11	ケアを統一したケース	支援中、ひたすら自分のまわりの 人の悪口を言っている。作り話や 被害妄想が強い。	理学療法士	独居。ヘルパーや訪問看護など が定期的に入っている。週1回 息子さん夫婦が買物、料理など を行っている。	本人が話す内容に「そうですね」と相槌をうちな がら受けとめるように対応した。	同じ話を繰り返すが、本人はすっきりし た様子。家族も同様の対応している。
12	サービス利用して 対応したケース	息子さんや他者の介護を受け入れ ない。物忘れ、妄想がひどく、ま た一日中怒りっぽい。息子と認識 できず怒る。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	妻がつきっきりで介護。下肢筋 力が低下してきている。	デイサービスの集団サービスは拒否がある。その ため1対1で対応できる訪問リハビリなどで対応 した。	理学療法士とのやりとりに慣れ、リハビ リが出来ている。妻もリハビリ中に、自 分の時間を過ごせるようになった。
13	サービス利用して 対応したケース	怒り始めると、しばらくその状態 が続く。行動するときは妻が必ず 付き添い、怒り始めた時は機嫌を とるようにしていた。	訪問看護ステーション 理学療法士	妻、息子さんと3人暮らし。認知 症と診断され、妻が1人で対応を していた。妻、息子さんに対す る暴力、妄想が強かった。	親族に状況を伝えるとともに介護保険サービスの 利用を勧め、妻以外の人に慣れることを目的とし て訪問看護を導入した。	女性であれば概ね本人の気持ちは安定 し、一緒に散歩をしたり、マッサージを 受け入れるようになった。妻がいなく ても安定した気持ちで40～60分は過ごせて いる。訪問は定着しつつあり、妻が介護 を抱え込んでいたが、徐々に手放せるよ うになってきた。

怒りっぽい・暴力

No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
14	サービス利用して 対応したケース	息子さんが身体を動かそうとした り動作を促す声をかけると、怒 鳴ったり手をあげることがあ った。リハビリでも運動を促そうと すると手が出てくる時がある。	訪問看護ステーション 理学療法士	脳出血を発症後、加齢と共に 徐々に認知力の低下がみられて いる。息子さんが1日中介護を している。	息子さんに、無理に動かしたり大きな声で指示す るような声かけをしないよう対応方法の指導をし た。デイサービスの利用や息子さんの促しによる 生活リズムの改善を図った。また、散歩の頻度を 増やして運動習慣をもうけた。	デイサービスを利用して数カ月経過し、 デイサービス利用の前日や利用日は睡眠 がとれる様になっている。リハビリ中も 覚醒が良い日が多く、声掛けに合わせて 運動ができるようになった。息子さんか らは「前よりは、大きな声を出す場面は 減った」という声が聞かれている。
15	サービス利用して 対応したケース	夫への暴力と暴飲・暴食が続いて いる。	訪問看護ステーション	夫婦2人暮らし。	介護サービスを導入し、本人の訴えを傾聴した。	ショートステイを導入し夫との距離をと ることで、少し落ち着き始めている。
16	サービス利用して 対応したケース	本人と関わっていると急に怒り出 すが、その後怒ったことを取り繕 う様子がみられる。	グループホーム 介護職	怒ったり泣いたり感情の起伏 がある。	家族の協力も得て、なるべく本人の希望に添った 支援を行った。	希望に添うように対応すると、穏やかに 毎日過ごしている。
17	説明して理解したケース	自分で動けなくなってからは、介 助者を蹴ったり、「やめろ！」と 怒りっぽい様子があった。	訪問看護ステーション 看護師	本人の世話は元妻が行ってい る。認知症を発症し自宅での生 活が困難なため、施設入所待機 となった。	これから行うケアについて説明したり、体に触れ る前に声掛けをしたりして対応・支援した。	怒る頻度が減り、支援を受け入れてくれ ることが多くなった。
18	説明して理解したケース	衣類の着脱や手引き歩行をする 際、介助者の手の甲をつねる行為 がみられた。数秒つねった後、介 助者の顔を見て、つねるのをやめ る。	訪問看護ステーション 看護師	お孫さん2人と3人暮らし。週3 回デイサービスに通所してい る。室内での歩行は四点杖、屋 外は車椅子を使用している。身 の回りのことは全て支援を受け	「痛いので止めてくださいね」と声をかけるよう にした。	手の甲をつねる行為は続いているが、痛 いので止めてほしいと伝えると、すぐ に止めるようになった。
19	入所となったケース	本人が急に怒り出し、はさみを投 げたりするため、妻は恐怖を感じ ている。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	妻と2人暮らし。近隣に息子さ ん夫婦が住んでいる。	妻の本心を聞き取り、施設入所や入院ができな いか主治医に相談した。しかし、脳梗塞を発症し入 院となったため、入院先の病院と退院後の施設入 所に向けて連携を図った。	妻の了解を得て、施設入所となる。妻に 対して暴力がみられたため、施設入所と なり、「これで良かった」と家族は思っ ている。本人も施設に慣れ過ぎしてい る。